



別紙

【手法】

地域新電力

EMS/VPP

水素

【目的】

再エネ拡大

災害対応

①自治体の基礎情報

【規模】

人口：946,973人（平成30年6月1日時点）、世帯数：430,449世帯（平成30年6月1日時点）
歳入・歳出：5,630億円（平成30年度一般会計予算）、面積：491.95km²（平成30年6月1日時点）

【立地】

福岡県北部に位置し、日本海（響灘）と瀬戸内海（周防灘）に囲まれた九州の玄関口であり、機能性が高い立地。さまざまな公共交通機関網が発達しており、「陸・海・空」すべての交通機能を利用可能。

飛行機：羽田90分、名古屋75分

新幹線：博多20分、熊本50分、鹿児島中央100分、大分80分、広島50分、新大阪130分

【産業構造】

市内総生産の経済活動別構成比※市内総生産（名目）3兆3,660億円（平成25年度）
製造業18.7%、建設業5.8%、電気・ガス・水道業3.7%、卸売・小売業11.0%、金融・保険業3.8%、不動産業9.4%、運輸業8.1%、情報通信業4.6%、サービス業24.9%、政府サービス生産者6.9%、その他3.1%

②各主体の参画理由

【北九州市】 北九州水素タウンや北九州スマートコミュニティ創造事業の実証事業、地域エネルギー拠点化推進事業をはじめとした、環境・エネルギーに関する最先端の取組実績、「地域における都市機能の集約及びレジリエンス強化を両立するモデル構築事業」における防災・減災に関する取組実績をいかし、さらに発展させることで、本分野における先進都市を目指すため

【北九州パワー】 需給管理システムに水素活用型EMS/VPPを加えることで、電力の地産地消、CO2排出量の削減、電力調達コスト（不足インバランス等）の削減を実現できるため

【正興電機】 電力分野に係る自社制御システムの構築・運用を通じ、上記をはじめとした同県内の課題解決に貢献するため

③過年度事業との関連性

北九州市では、環境省「平成29年度 地域における都市機能の集約及びレジリエンス強化を両立するモデル構築事業」を活用し、蓄電池の整備候補先、設置容量を整理している。本年度の検討では、シミュレーションを踏まえ、本事業で必要となる蓄電池容量を算出するが、この設置場所について、過年度事業を参考に検討することとした。